

地域医療における自己健康管理のための薬局機能に関する検討

○深堀 泰弘¹, 岡崎 光洋²(¹ツルハ薬局, ²北海道薬大)

【目的】地域医療における薬局の役割として、処方せん調剤における安全で効果的な薬物治療、そして一般用医薬品の販売による軽疾患治療への貢献など、病気になる方への対応が主となっている。しかし、国民医療費の急激な増加や医師不足による医療制度の疲弊等から、病気にかかる前の状態、いわゆる未病に対する薬局及び薬剤師の関与が、重要になってきている。すなわち薬局の健康ステーション化が、国民の公衆衛生の向上に大きく寄与すると考えられる。弊社は、北海道大学、北海道薬科大学、シスコシステムと共同で、遠隔健康相談システムの実証実験を行ってきた。さらに地域住民の健康管理に深く関与することを目的として、薬局での自己採血による健康診断サービスの提供を開始した。今回、これらの取組による、地域医療における薬局の役割について検討した結果を報告する。

【方法】健康診断サービスは、利用者に薬局で提供する自己採血キットを用いて採血後、遠心分離により得られる血漿サンプルと共に、健康生活質問調査票の回答結果を、検査センター及び健診センターに送る。後日、検査結果と生活アドバイスが健診センターより薬局に送付される。薬局から利用者に連絡し、来局していただいて、必要に応じて薬剤師からも健康管理に関するアドバイスと共に健康診断結果を手渡す。さらに希望する健診サービス利用者は、遠隔健康相談システムを利用した、看護師及び保健師から保健指導を受けることが出来る。

【結果・考察】今回の取組により、薬局における地域住民の健康管理に係わるサービスの提供について検討した。健康診断サービス及び遠隔健康相談システムが、利用者の健康管理に貢献することができ、アクセスビリティの観点からも、薬局における国民の健康管理への対応が望まれている事が示唆された。